



資料編

1. 第4次かつらぎ町長期総合計画策定経過
2. かつらぎ町長期総合計画策定審議会委員名簿
3. 諮問・答申



1. 第4次かつらぎ町長期総合計画策定経過

日程	事項	内容
6月13日	第1回長期総合計画策定審議会	役員選任、諮問 後期基本計画策定方針について かつらぎ町の現状について
6月19日	議員全員協議会	経過報告
8月22日	第1回長期総合計画策定委員会	後期基本計画案について (序論及び基本計画2章まで)
9月19日	第2回長期総合計画策定審議会	後期基本計画案(序論及び基本計画2章まで)について
10月23日	政策推進会議	後期基本計画案(基本計画3章)について
11月7日	第3回長期総合計画策定審議会	後期基本計画案(基本計画3章)について
11月21日	政策推進会議	後期基本計画案(基本計画4章～6章)について
12月12日	第4回長期総合計画策定審議会	後期基本計画案(基本計画4章～6章)について
12月14日	議員全員協議会	経過報告
1月4日 ～1月18日	パブリックコメントの実施	かつらぎ町ホームページに掲載 (広報かつらぎ1月号掲載)
1月4日	政策推進会議	審議会での議論について
1月10日	第5回長期総合計画策定審議会	後期基本計画案について(全体) 答申案について
2月1日	町長答申	

※長期総合計画の策定及び推進に関する庁内審議については、平成29年10月1日の庁内会議設置規程の一部改正により、かつらぎ町長期総合計画策定委員会を廃止し、新たに政策推進会議において審議した。

2. かつらぎ町長期総合計画策定審議会委員名簿

(委員は、五十音順 敬称略)

職名	氏名	役職等
会長	藤田 武弘	和歌山大学観光学部 教授
副会長	中前 光雄	かつらぎ町自治区長会 会長
委員	井本 嘉宏	かつらぎ町青年団 団長
委員	浦中 みつる	かつらぎ町人権擁護委員会 委員
委員	北浦 弘子	かつらぎ町女性会議 理事
委員	北林 佳憲	かつらぎ町医師会 会長
委員	阪田 恵央	かつらぎ町商工会 事務局長
委員	田村 公一	かつらぎ町消防団 団長
委員	西村 公孝	紀北川上農業協同組合 かつらぎ支店長
委員	前田 真里	地域おこし協力隊員 (御所)
委員	松野 恵理	地域おこし協力隊員 (四郷)
委員	南 善久	かつらぎ町民生児童委員協議会 会長
委員	山本 祐示	かつらぎ町農業担い手交流会 副代表

3. 諮問・答申

か 第 0 6 0 2 0 1 8 号
平成 2 9 年 6 月 1 3 日

かつらぎ町長期総合計画策定審議会会長 様

かつらぎ町長 井本 泰造

第4次かつらぎ町長期総合計画後期基本計画(案)について(諮問)

このことについて、かつらぎ町長期総合計画策定審議会規則第2条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

平成30年2月1日

かつらぎ町長 井本 泰造 様

かつらぎ町長期総合計画策定審議会
会長 藤田 武弘

第4次かつらぎ町長期総合計画後期基本計画（案）について（答申）

平成29年6月13日付けか第0602018号で諮問のあった第4次かつらぎ町長期総合計画後期基本計画の策定について、本審議会において慎重に審議を行った結果、次のとおり答申いたします。

町においては、前期基本計画策定後、一般国道480号鍋谷峠道路の供用や京奈和自動車道路の県内全域開通などインフラ整備が進み、さまざまな地域資源を活用した施策の実施により、移住定住や交流人口の増加、地域の活性化につながる事が期待されています。

他方、少子高齢化や若者の転出等による人口減少により、空き家の増加、地場産業の後継者不足、地域内生産や消費の減少、自主財源の縮小等により、地域の活力低下や社会資本の維持管理の遅れが懸念されます。

後期基本計画は、このような強みと課題、社会条件を踏まえた内容となっており、強みを生かした独自の町づくりの施策と住民サービスの提供により、引き続き、「住んでみて ここがイチバン かつらぎ町」の実現に向けて、積極的に取り組まれることを望みます。

なお、計画の推進に当たっては、下記の事項の実施について十分な検討を行い、目標達成に向けて取り組むことを求めます。

記

1. 産業振興は、まちの活力を高めていくとともに人口対策の面から極めて重要な政策と考えます。既存の事業者をしっかりと守り育てることはもとより、新たな事業展開や起業への支援について、さらなる充実を望みます。

基幹道路の整備に伴い、新たな地域農産物の販売拠点の整備など、交流人口の増加を目的としたハード面の整備が計画的に行われてきましたが、ソフト面については今後、更なる充実が必要であると考えます。

町内にある道の駅は、町外から訪れる方にとって、最も本町の魅力をPRできる施設でもあることから、かつらぎ町の地域資源をアピールし、地域の魅力を伝え、訪れる人々が喜び楽しむことができる交流の場として活用の推進が望まれます。

特に、国道480号鍋谷峠道路の開通により、大阪方面からのお客様にとって町の玄関口となる道の駅くしがきの里については、町内生産者への出品周知はもちろん、出品しやすい独自の取引形態の導入、体験スペースや移住推進ブースの設置、地元住民を入れた検討会の設置などを行い、本町の顔として交流人口の拡大やお客様の満足度向上に努められることを望みます。

また、町産品や加工品のブランディングにより付加価値を高め、効果的なプロモーションを実施することにより、地域農業者の収益性の向上と地域活性化に取り組まれることを期待します。

2. 基幹道路の整備によって来町者の増加が期待されており、交流人口の拡大による地域経済の活性化について、観光は今後ますます重要な役割を持つものだと思います。

そのためには、将来を担う世代の意見を大いに取り入れ、既存の観光・交流資源はもちろん、新たな地域資源の掘り起こしやそれらを最大限に活用するなど、新たな視点からまちづくりを考えるワーキンググループの設置が必要であると考えます。

また、町内全域を周遊したり新たな観光資源に誘客するための案内看板や標識の設置、単なる遊興施設ではない自然を活かした人との交流が図れるような、ボルダリングやサイクリング、トレイルランニングコースの整備など、特色ある観光振興施策に取り組むことを望みます。

3. 人口減少や少子高齢化の進行、価値観やライフスタイルの多様化により、地域社会における人間関係の希薄化、地域コミュニティの機能低下が危惧されており、公民館には生涯学習の場としての役割に加え、地域づくりや地域連帯意識の向上、地域の課題解決に向けた学習活動を支援する学びの場などに寄与することが求められています。

そのため、公民館活動・地域活動において、まちづくりと連携した取り組みを進めるとともに、地域のリーダーと行政職員が共通意識を持って取り組みを推進するため、地域の中心となる人材の発掘や研修を実施するなど、人材育成に取り組まれることを望みます。

また、若年層の転出を防ぐためには、子どもの頃から郷土愛を育み、かつらぎ町に愛着を持つことが重要であり、地域社会全体で子どもたちを育む機運が醸成されるよう、子ども会リーダー育成研修を公民館で開催するなど、学校と地域との連携・協働を一層強化することを求めます。